

YASUNARI^{GROUP} CSV Creating Shared Value REPORT 2026

持続可能な未来と共有価値の創造を目指した — 安成グループの活動報告





Environmental Symbiosis

Yasunari Komuten's Housing Division crafts the highest-quality wooden homes.

Fino & Vogue



Design Build

We integrate design and construction to eliminate waste.

Cedar HQ & Teiai building



PFI

Yasunari delivers PPP projects from design-build to operation—built to serve communities long term.

Yasura garden

YASUNARI グループの CSV について

環境共生とデザインビルド



今から43年前(1984年)に本社を豊北町から下関市へ移転・新築した際、本社ビルの会社看板のロゴマークの上に「環境と住まいをトータルに提案します」とキャッチコピーを掲げた。これが環境を謳った最初の発信であった。

この時点の環境は景観環境を考えた住まいづくりを目指すという観点でしかなかった。その後、37年前(1989年)に太陽熱を空気集熱し床暖房・換気・給湯に利用する「OMソーラーシステム」を考案した東京芸術大学名誉教授奥村昭雄先生に出会い、OMソーラーを通して環境共生住宅の道を歩き始めた。

32年前(1994年)に、OMソーラーからOMをより快適にすることが出来る新聞紙をリサイクルしたセルローズファイバー断熱材を紹介され、その施工方法を突き詰める過程で「デコスドライ工法」の次世代断熱基準の認定を受け、グループ会社の(株)デコスよりオリジナル工法として全国に普及するという道を得た。

更に、30年前(1996年)に、これもOMソーラーの紹介で大分県上津江村と知遇を得、林産地連携の家づくりをスタートすることとなった。

こうして、環境共生の一本道をまっすぐ歩むこととなった。

一方で、建設業がいつのまにか不人気で技術者の地位が低下する様を見て悶々とする中、「受注」「請負」という建設業が持つ構造的な問題に対して疑問を持つ心が芽生え始めた。つまり受注業態である以上、価格と施工技術にしか優位性が見

いだせないわけである。

「設計・施工」の建設会社をつくりたい。そう思ったのは市内の設計事務所を退社してS君が入社してくれることが決まった44年前(1983年)だった。

以来、賃貸マンション、事務所、工場と徐々に実績を積み現在では建築事業部の売上の約95%が自社設計となり、建築・住宅事業部を合計すると合計43名、184名の全社員の23%を占める社員が設計に携わる会社となった。まさに「Architect Construter」「Architect Builder」である。

あれから40有余年が経過し、会社は17倍に成長をとげ、私が志向した「デザインビルド」こそ地方建設会社が目指すべき道だとの確信が日に日に大きくなった。

私が目指す建設業は、建物づくりを通じて街並み景観をデザイン的にすぐれた持続可能なものにするとともに、地域建設業として、ライフサイクルカーボン最小化し環境にやさしくヒトに健康な暮らしを提供する会社になりたい。

またそれは、デザイン提案でき、街づくりに取り組み、薄れた地域のコミュニティを再構築する役目も担う幅の広い地方建設会社でもある。

これからも取組の深耕を続け「更に何ができるか?」との問いかけを続けていく。そのために、このレポートはYASUNARIグループ全社員の事業活動の羅針盤にしたい。

9 Editor's Letter

環境共生とデザインビルド

12 MVV

- ・地域と共に歩むための行動基準
- ・社内外との協働で、理念を実践する

16 Special Dialogue

稼ぐ社会から残す社会へ

安成工務店 × 藻谷 浩介 氏

24 YASUNARIグループの紹介

26 会社概要

28 安成工務店75年の歩み

30 安成会長メッセージ

34 中村社長メッセージ

38 各事業部の紹介

43 YASUNARIグループ関連図

44 グループ会社概要

50 Dialogue

創業75年 継承と革新の背骨

安成会長 × 中村社長

54 5つのポリシーについて

57 地域資源を活かす“建築の力”

81 暮らしと安心を支える“社会インフラ”

93 地域に根差す好循環“人と仕事”

101 暮らしを豊かにする“共感の場づくり”

109 環境価値をつくる“未来志向のまちづくり”

122 エコアクション21

124 KPI

128 Review

CSVレポート2026に寄せて

赤井 厚雄 氏

57 地域資源を活かす“建築の力”

58 環境共生住宅

60 OM AIR / OM ソーラー

62 30年にわたる林産地連携

64 デコスファイバー / デコスドライ工法

66 環境情報を把握した建材の積極活用

67 アップフロントカーボンの自主計算

68 グループの住宅会社4社の省エネ性能

70 デザインビルド(企画・設計・施工)

72 商業施設開発(ネイバーフッド型)

74 医療モール開発

76 やすらガーデン(PFI)での挑戦

78 (一社)新・建設業地方創生研究会 事務局運営

80 独立系地盤調査会社のFCとして

80 建物のフル・リノベーション

81 暮らしと安心を支える“社会インフラ”

82 木の家の健康を研究する会

83 木の家の健康実験①「研究概要」

85 木の家の健康実験②「研究計画」

86 住まいと健康長寿の研究(慶應義塾大学)

88 高齢者有料老人ホーム事業

89 障がい者グループホーム事業

90 就労継続支援A型事業(チアーズ/ BASE)

92 全天候型こども広場「Mu-Mo(ムーモ)」

93 地域に根差す好循環“人と仕事”

94 健康経優良法人

95 ワイズパートナーの取り組み

96 採用・人材育成・メンター制度

97 大工育成・技能五輪への挑戦

98 海外大工の受け入れ交流

100 シェアハウス運営

101 暮らしを豊かにする“共感の場づくり”

102 コミュニティ活性化事業(やすらガーデン)

104 ローカル・エンターテイメント・デザイン(LED)の取り組み

106 くりえいとの“まちづくり事業”

108 ネンリエ(山口市) / 糸島ギャラリー(糸島市)

109 環境価値をつくる“未来志向のまちづくり”

110 エコタウン開発(安岡・綾羅木・新下関)

112 そーれ菊川・工場見学ツアー

114 森林体験ツアー・植林活動

115 木質ベレット製造

116 小水力発電事業(北広島小水力発電機)

117 木造応急仮設住宅建設協定締結(山口県)

118 「熊本地震・人吉水害」デコスの力を結集

120 「能登半島地震」デコスと安成工務店が協力

本報告書は、YASUNARIグループが歩んできた活動の記録であると同時に、未来に向けた社会との対話の場でもあります。ここで紹介する取組みは、一企業の事例にとどまるものではなく、全国の地域工務店が「アーキテクトビルダー」として力を高め、連携し、地域社会の担い手となっていく未来像を示すものです。

読者の皆さまがその可能性に共感し、自らの地域や組織での実践へとつなげていただければ幸いです。また、自然素材の木の家が住まい手の健康を育み、長い年月の中で地域と人を豊かにすることを示す研究の成果も紹介しています。

これらは、住宅が単なる建物を超えて、暮らしそのものを変え、社会の質を高める存在であることを示唆しています。

このレポートが、読者の皆さまに「地域の未来をどう築くか」を考えるきっかけとなり、同じ志を持つ仲間を増やし、産業や社会の進化を加速させる一助となることを期待しています。

報告対象組織

- 株式会社 安成工務店
- 株式会社 オークス建設
- エコビルド 株式会社
- 株式会社 銘建
- 株式会社 デコス
- 北辰建設 株式会社
- 株式会社 ワイズパートナー
- 株式会社 ハウズドクター山口
- 株式会社 くりえいと
- ローカル・エンターテイメント・デザイン 株式会社
- 株式会社 アスティ・ケア
- 株式会社 ER企画
- 北広島小水力発電 株式会社

事業内容の対象範囲

(株)安成工務店と環境経営上重要な子会社を(株)デコスとしています。尚、(株)オークス建設、(株)銘建、(株)ハウズドクター山口、エコビルド(株)、(株)アスティ・ケア、北辰建設(株)、(株)くりえいと、(株)ワイズパートナー、(株)ER企画、ローカル・エンターテイメント・デザイン(株)、北広島小水力発電(株)も一部の事業で関係性をもっているため掲載しています。

報告対象期間

～2025年12月(一部対象期間外の活動を含む)

発行時期

2026年4月1日

参考ガイドライン

- 環境省「環境報告ガイドライン」(2012年版)
- 温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度

レポートに関する問い合わせ先

株式会社 安成工務店
[企画室: 竹藤 勲]
〒751-0865
山口県下関市綾羅木新町3-7-1

WEB <https://www.yasunari-komuten.com>
E-mail somu@yasunari.co.jp
TEL 083-252-2419
FAX 083-252-2720

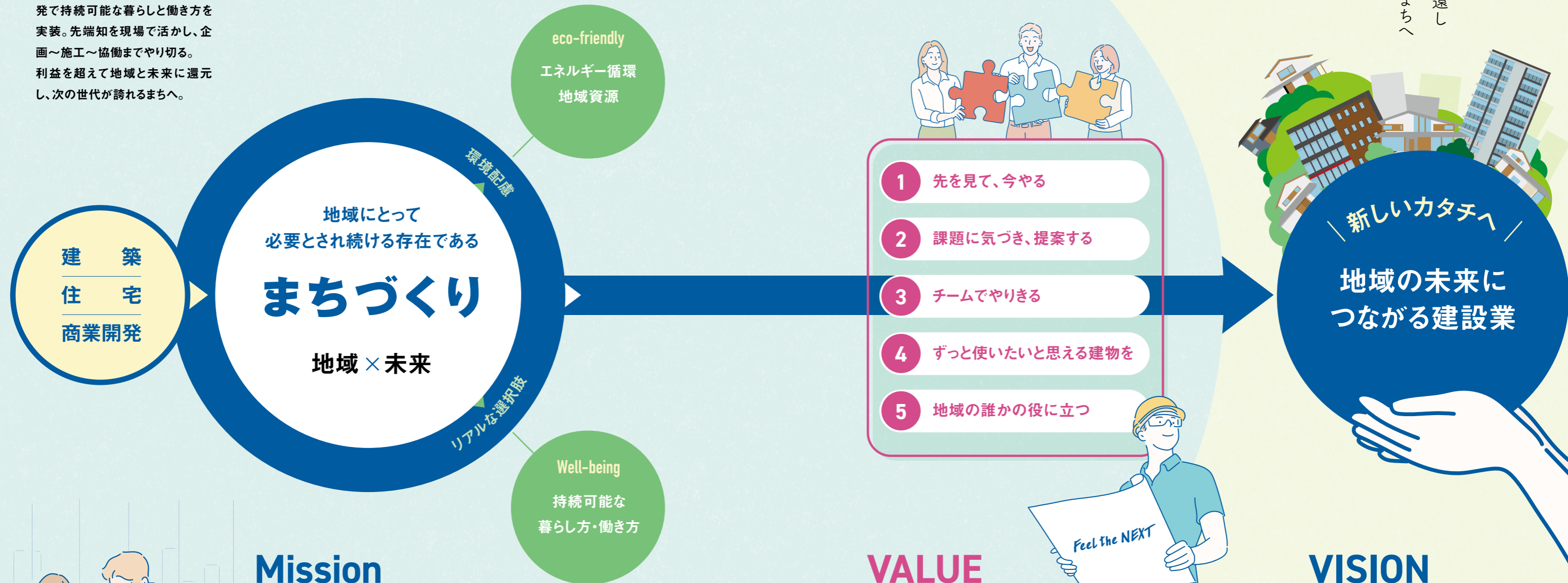
ホームページはこちらから→



MVV

地域とともに歩むための行動基準

地域に根ざし、建築・住宅・商業開発で持続可能な暮らしと働き方を実装。先端知を現場で活かし、企画～施工～協働までやり切る。利益を超えて地域と未来に還元し、次の世代が誇れるまちへ。



現場で解き地域に還し
次の世代が誇れるまちへ

Mission

私たちは、建築・住宅・商業開発など幅広い分野で、地域に根ざした「まちづくり」を実践しています。今後は、地域資源やエネルギー循環といった環境配慮の視点も掘り下げながら、「持続可能な暮らし方」「働き方」のリアルな選択肢を、地域のなかで提案し続けます。

VALUE

私たちは、地域の未来を見据えて先端知と技術を現場に活かし、企画段階から本質的な課題を捉えて提案し、設計・施工や地域との協働によりより良い仕事をやりきり、使う人にも環境にも長く愛される空間を追求しながら、利益だけでなく地域と未来のために本当に必要なことに取り組む姿勢を大切にしています。

VISION

目指すのは、次の世代が誇れるまちをつくること。AIや効率だけでは辿りつけない、地域や人に寄り添うものづくりの技術と責任感を胸に、地域に根ざした建設業の新しいカタチを育てていきます。

CSVをどうやって育てるか？

CSV

社内外との協働で 理念を実践する

CSV(理念経営)を実践するには、「共感し、納得して動ける体制」と「共に進める仲間」が欠かせません。そのため、次のような社内体制と外部連携を重視しています。



CSVを経営の軸に

経営層がCSVの軸を打ち出し、日々の意思決定に組み込む。

重点方針を自分ごと化

各社、各事業部門が重点方針に沿ったテーマを持ち、自分ごととして取り組む。

学びと実践のスパイラル

時には、職種や立場を超えた横断チームで、学びと実践を繰り返す。

現場の声を制度に

現場の声を吸い上げる場、評価制度への反映。社内発信を強化する。



人が成長し
個で動ける体制



課題別パートナーシップ

行政、大学、金融機関NPOなど、テーマに応じたパートナーと連携する。

共創型まちづくりの実装

地域住民と共に考え、育てるまちづくりプロセスを実装する。

ユース協働の場づくり

若者世代との協働を大切にする。
(インターン、地域教育対話の場づくり)

団体・外部グループ

情報共有
ベンチマークし
学び実践する。



共感し
共に進める仲間

ex. 県や市町との包括協定・連携 / 銀行・信金・地域ファンド / 地元大学との包括協定・連携 / サービスラーニング / ワークショップや意見交換 / OMソーラーとの新たなパッケージ / サステナビリティレポート / 小水力発電事業



A conversation with

MOTANI

特別対談

建設業は、地域に何を遺せるのか

安成 信次 × 藻谷 浩介 × 中村 圭

稼ぐ社会から 残す社会へ

人口減少下で、地域建設業が真に報われ、成長を続ける道はどこにあるのか。安成工務店が掲げる「創注型建設業」は、単なる請負を脱し、自ら地域の仕事を創出する。安成信次会長、中村圭社長、そして日本総合研究所の藻谷浩介氏が下関の「蛸遊苑」を舞台に、良質な「ストック」を積み上げる新たな成長モデルを語り合った。

人が集い、語ることの価値

コミュニティは数字の外側で育つ

藻谷 今日ここで三人が向き合って話していること自体が、実は「安成工務店の事業のあり方」や「プロジェクト評価」の核心を突いています。企業や行政はつい、来場者数や売上といった数字で見える成果を追いかけてますが、その数字の「外側」にある価値こそが、地域を支える土台となります。

安成 数字で測れない価値。それは私たち造り手も日々、肌身で感じていることです。かつての高度成長期のような「造れば売れる」時代ならいざ知らず、今はその建物が地域の暮らしにどう作用し、どれだけ愛され、日常の中に溶け込んでいるか。その「目に見えない豊かさ」にこそ、私たちが追求すべき「質の高い仕事」の本質があります。

中村 その価値を運営の現場でいかに持続させるかを常に考えています。例えば、「やすらガーデン」のように心地よい場ができ、コミュニティセンターや図書館は、月に2万人近い方の利用があります。このエリアの民間ビジネス（飲食やイベント運営）による売上高だけを見れば高いとしては決して大きくないかもしれない。しかし、その人たちが「ここができる前、何をして過ごしていたか」を想像すると、また別の価値が見えてくるはずですよ。

藻谷 まさにそこです。やすらガーデンができる前はどうかだったんでしょうか？

中村 家から出ることなく、テレビを見るか、誰とも話さない時間を過ごされていた方もいらっしゃると思います。それが、こうした場があることで、身なりを整え、外に出て、誰かと出会い、言葉を交わす。その「時間の使い方」そのものが新しく生まれている。これは単なる複合施設ではなく、地域の「体温」を上げるためのインフラ。血流を促す装置だと思っています。

藻谷 その通り。コミュニティの本質は「習い事やワークショップに参加する」「図書館で本を読む」「カフェでコーヒーを飲む」という機能の前段階にある「人が集まり、話すこと」そのものにあります。人と人が話すだけで、地

域の熱量は確実に上がる。派手な打ち上げ花火を上げなくても、こうした日常の対話を日々積み上げれば、金銭には換えられないとてつもない価値を生みます。ただ、今の評価システムは「短期の数字」に偏りすぎていて、こうした本質が削ぎ落とされてしまう。

安成 効率性という物差しで「余白」を無駄だと切り捨ててきたのが、これまでの都市開発でした。しかし、今の東京のように地価が高騰すぎた場所では、こうした「ゆとりある空間」を維持すること自体が経済的に困難になっています。地方には空間的な余裕がある。これは決して「遅れ」ではなく、むしろ人々の関係性を育み、精神的な豊かさを担保するための、地方だけが持ち得る強力な「資産」なんです。



なぜ建設業は誤解されてきたのか

デザインビルドという「背骨」が担保する「質の高い仕事」

安成 日本の建設業は、どこか根本的な部分でボタンを掛け違えてきたのではないかと。その思いがずっと消えません。かつて建設業は「既得権益」や「土建国家」の象徴のように揶揄され、社会的なポジションを不当に落としてしまいました。しかし、地域で泥にまみれ、災害時に誰よりも早く駆けつけ、暮らしの最前線を支えている実像は、世間のイメージとは全く異なります。

藻谷 建設業に対する社会の見方は、驚くほど歪んでいますね。実態を知らずに、「ゼネコンは不透明だ」といった極端に単純化された言説だけが一人歩きしている。この「認知のズレ」が、社会的評価を下げ、結果として若者が誇りを持って入ってこない担い手不足を加速させてきました。

中村 そのイメージを打破するには、

私たち自身が「何のために造り、どう守るのか」という信条を持ち、逃げ場のない責任を負う「背骨」の強さを示すしかありません。会長が長年大切にしてきたこの「背骨」こそが、安成グループが提供する「質の高い仕事」を支える根幹です。

安成 私の言う「背骨」とは、設計施工を一貫して担う覚悟のことです。私は若い頃、設計者・施主・施工者の歪な力関係の中で、施工者だけがリスクを押し付けられ、疲弊していく現場を何度も見てきました。その時に強く思ったんです。「同じテーブルに立ち、同じ責任を負う仕事がしたい」と。だからこそ、敢えて厳しい道である設計施工一貫体制を選びました。

中村 この体制は、単に仕事を社内に抱え込むためではありませんよ

ね。設計の段階から施工の精度を考え、お客様の事業や暮らしに寄り添い、施工した後は30年、50年とアフターメンテナンスまで責任を持つ。すべてにおいて「逃げ場がない」状態に自分たちを追い込むことで、提案や技術の質を上げ、お客様に対して極限まで誠実であり続ける。この「背骨」があるからこそ、時を経ても価値を失わない、本当の意味での「質の高い仕事」が担保されるんです。

藻谷 その「逃げ場のない責任」こそが、産業の格を上げる武器になります。図面通りに造るだけの「請負」に安住せず、自らリスクを取って地域課題を解決するパートナーへと進化させる。これこそが建設業の本来あるべき姿であり、地域に根ざした独自の生存戦略になります。

PROFILE



安成 信次

株式会社安成工務店 代表取締役会長

×



藻谷 浩介

株式会社日本総合研究所 主席研究員
株式会社日本政策投資銀行 地域企画部 特任顧問
Compus 地域経営支援ネットワーク 理事長

×



中村 圭

株式会社安成工務店 代表取締役社長

建設業は「稼ぐ産業」ではない

ストックをつくる「創注型」への転換

藻谷 建設業の本質を再定義するならば、それは「フロー（稼ぎ）を追う産業」ではなく、「ストック（資産）をつくる産業」です。日本は昭和から平成にかけて莫大に稼ぎました。しかしその結果、できた建物の多くが数十年で壊される「消費物」に成り下がってしまった。稼いだ利益が、街並みや住宅の質として地域に蓄積されず、外へ流出してしまった。

安成 稼いでいるはずなのに、街がちっとも豊かにならない。その矛盾の正体はそこにあります。だからこそ私は、ただ待っていて受注する「請負」を脱し、自ら仕事を創り出す「創注型建設業」を提唱しています。地域に今何が必要かを自ら考え、企画

し、開発し、維持管理まで責任を持つ。稼いだエネルギーを、地域に長く残る良質な「ストック」へと変換する循環を、自らの手で創り出すんです。

藻谷 本当の成長とは、GDPの数字が増えることではなく、良質なストックが着実に積み上がることです。世代を超えて使われ、時間が経つほどに風景としての価値が増していく建築。それをどれだけ残せるかが、成熟社会における成長の本質です。

中村 私たちは今、そのストックの概念を建物だけでなく「エネルギー」の分野にも広げて実装を始めています。例えば広島県北広島町での「脱炭素先行地域」としての取組みがその

ひとつです。豊富な水資源を活用した小水力発電を軸に、地域のエネルギー自給率を高め、その収益を地域の教育や子育て支援に還元する仕組みを進めているところです。これは単なる再エネ事業ではありません。地域経済が持続的に循環し続けるための「仕組みというストック」を、共振するビジネスパートナーとデザインすることだと思っています。

安成 住宅というマイクロな視点から、エネルギーやコミュニティというマクロなインフラまでを、事業として成り立たせる。この「創注」の積み重ねが、地域の暮らしを総体で守り抜くことにつながります。

日本は「稼げない国」ではない

GDPは「使う力」である

中村 言い過ぎかもしれませんが、地方では大きく稼げないかもという閉塞感があります。藻谷さんの分析を伺うと、実は私たちはまだ「稼いだお金の正しい使い道」を知らないだけではないか、と感じます。

藻谷 その通りです。日本は今も世界トップクラスに「稼いでいる国」です。経常収支は常に黒字。問題は「稼いだお金が国内で回っていない」ことにあります。地域で稼いだ富が、地域の建物や風景にならず、海外投資

という名の「皮下脂肪」として外に溜まっている。GDPとは、実は「使う力」のことなんです。日本は稼いでいるのに、それを国内で健全に使い、循環させることを止めてしまった。

安成 稼いだエネルギーを、血流として地域に回すための「心臓」や「血管」の役割を、建設業が担わなければならない。そのためには、一過性の消費で終わらない「質の高い仕事」を通じて、地域にお金と信頼が留まるきっかけを造る必要があります。

藻谷 例えるなら、製造業が栄養を口に運ぶ役割だとしたら、建設業はその栄養を身体の骨格や筋肉へと定着させる産業です。良い骨をつくらなければ、社会が年老いた瞬間に、すべてが瓦解してしまいます。日本経済の不調は「稼げないこと」ではなく、「稼いだものをストック（筋肉や骨）に変えられないこと」にあります。

中村 私たちはその「使う力」を、地域の未来への確かな投資に変えていきたいと考えています。例えば、老朽化した公共施設に手を加えて新しいビジネスの拠点にする。あるいは、地域の未利用資源を、良質な建材やエネルギーとして私たちの事業の中でいかに「再価値化」できるか。そうした新しい循環の形を描き、一つずつ社会に実装していこうと挑戦を続けているところです。新しいものを造るだけでなく、今ある資源をどう磨き直し、管理していくか。その「目利き」と、それを形にする「現場力」こそが、これからの地域ゼネコンの武器になります。



写真／「蛭遊苑」の大ホールと企業展示ルームは、杉材の変形トラスの架構をもった空間となっている。当初図面を見たときは、この複雑な架構をどう組み立てるのか？と相当不安になったものだ。問題は2つ。一つは品質の安定した乾燥した構造材が確保できるか？である。これについては大分県上津江村と取り組んでいる天然乾燥「輪掛け乾燥材」があるため、ほぼクリアできると考えていた。実際、上津江村のストックヤードに設計士の泉さんをお連れし、しっかり材料の吟味を頂き、その質、量にお褒めの言葉をいただいた。次にコンピュータでしか解析できない複雑な梁・桁架構の機械加工である。超高度なプレカット加工に実績のある山佐木材㈱[鹿児島県]をお願いすることで解決を見た。(安成)

PPP/PFIは特別な手法ではない

公と民の境界を引き直す

藻谷 最近ではPPP / PFI（公民連携）を何か特別な魔法の手法のように語りますが、本来、道路や教育、インフラという公共ストックの上で民間は活動しているのですから、すべての事業は広い意味でのPPPです。問題は、現場レベルでPPPが単なる「行政のコストダウンの道具」として扱われていることです。

安成 同感です。本来は、民間の知恵やスピード感で価値（ベネフィット）を最大化するためのものなのに、発注側も受注側も目先の「安さ」や「要求水準通り」だけを基準にしてしまう。そうすると、長く使われない施設ができることにも繋がりがねず、数十年後には膨大な維持管理費だけが残る将来への負債となります。

中村 私たちが運営に関わる公民連携施設では、行政担当者や地元事業者、地域の方々と「どうすれば将来も使われ続ける状態を作れるか」と対話を繰り返しています。設計施工から運営までを一貫して引き受けるのは、まさに「逃げ場のない背骨」を公民連携事業の領域にも持ち込むためです。運営の苦労を自分たちが背負うからこそ、一切の手抜きはできません。

藻谷 建設投資は、やり方を間違えると将来の負債を産みます。センスのない建物や用途の拡がりを深く構想していなかった建物は維持費だけがかかると死に体になる。だからこそ、地域の未来を我が事として捉え、100年残るストックを描き、それを「質の高い仕事」で具現化できる建設業の介在

が、今の日本において最も付加価値が高い仕事なんです。

中村 その価値の測り方として、藻谷さんは「面白いかどうか」という直感的な基準を大切にされていますよね。

藻谷 そうです。そこに行ってワクワクするか、忘れられない体験があるか。ハードの整備はある意味で「芸術」であり、地域の思想そのものです。ハードの使い手に深く刺さる圧倒的な価値が、結果として時間の試練を乗り越え、後世まで残ります。YASUNARIグループが手がける空間には、その「刺さる何か」がある。

建設業は「未来」を教育する

時間と戦う産業へ

安成 下関のような人口減少が進む地域で、それでもこうした「質」を追求する挑戦を続ける意味を、次の世代にどう語り、継承していくべきでしょうか。

藻谷 人口減少はもう、抗えない事実です。しかし、それは絶望ではありません。「量を追う時代」が終わったということは、ようやく「質」で勝負できる時代が来たということです。人口が半分になっても、残ったストックの質が以前より高ければ、その地域はむしろ以前より豊かに生き続けられます。皆さんが戦っている相手は、隣のライバル会社ではありません。「時間」です。

中村 未来の風雪に耐えうる骨格をつくる。そして、その骨格を使いこなす文化を育てる。その責任の重さを、改めて感じます。

藻谷 私は建設業を、地域の民度を上げる「教育事業」だとも思っています。幼い頃から質の高い建築や豊かな風景を見て育った子供は、大人になった時に選ぶ基準、美意識が変わる。住まいの質、街並みの美しさが、そこに住む人の価値観や品性を静かに育てていきます。

安成 建物や空間が、地域の「教

科書」になり、次世代への「メッセージ」になる。そう思うと、私たちの仕事は決して「箱」を造ることではありませんね。地域のプライド（誇り）を形にし、次世代に手渡していく「質の高い仕事」の積み重ねそのものです。

中村 会長が築いてきたこの「背骨」を、本業である建設を極めた上で、デジタルやエネルギー、ソフトの運営といった新しい領域へと拡張し、実装していきたい。未来の世代が「この街に生まれてよかった、この場所を残したい」と思えるストックを一つでも多く残すこと。それが、私たち世代の逃げ場のない使命です。

安成 そのバトンを託せることに、今は大きな手応えを感じています。建設業が地域にとっての「希望」となる時代は、これからが本番です。

“ 成長の定義を「ストックの質」へと更新し
地域建設業が誇りを取り戻す。

安成会長や中村社長はYASUNARIグループのCSVを「地域経済を回すための合理的な経営判断」と断じる。稼ぐ社会から、残す社会へ。

地域に使われ続ける状態を残す「次の地域の成長モデル」はすでに確かな形を築き始めている。



蛭遊苑

長府製作所記念館

蛭遊苑は「城下町長府」の景観に調和する建築様式で設計されました。寺社、武家屋敷、土堀などの歴史的建造物とともに風情ある町並みに馴染んだ佇まいの建築物です。四季折々の変化を感じさせる伝統的な日本庭園を備えています。館内は長府製作所がゆんだ道のりや城下町長府の歴史などを紹介する展示室、様々な用途でご利用できる多目的ホールや和室(茶室)、日本庭園を眺めながらくつろげる喫茶を併設しています。(安成工務店と泉幸甫建築研究所の企画・設計提案にて受注(2014年))

プロデューサー
株式会社長府製作所 代表取締役会長 川上康男
ディレクター
株式会社安成工務店 代表取締役 安成信次
デザイナー
泉幸甫建築研究所 泉幸甫

〒752-0978 山口県下関市長府侍町 2-6-45
<https://www.chofu.co.jp/keiyu/>

もっと HUMAN さらに NATURAL

FEEL THE NEXT



YASUNARI GROUP



役員紹介

上段は(株)安成工務店 下段はグループ会社

安成 信次
代表取締役会長

中村 圭
代表取締役社長

岩本 相栄
常務取締役

松本 竜至
取締役

弘中 一久
取締役

宮崎 克史
取締役

藤本 圭二郎
取締役

岡田 圭三
(株)オークス建設
代表取締役

樋口 光浩
エコビルド(株)
代表取締役

入江 祐二
(株)銘建
代表取締役

竹之内 貴浩
(株)デコス
専務取締役

立道 昇二
北辰建設(株)
代表取締役社長

岩本 相栄
(株)ワイズパートナー
代表取締役

水馬 健太郎
(株)ハウスドクター山口
常務取締役

宮崎 克史
(株)くりえいと
代表取締役

中村 圭
ローカルエンターテイメントデザイン(株)
代表取締役

中村 輝寿
(株)アスティ・ケア
代表取締役

伊藤 優介
(株)ER企画
取締役

安成 信次
北広島小水力発電(株)
代表取締役

会社概要

株式会社
安成工務店



商号	株式会社 安成工務店	
代表者	中村 圭	
創立	1951年1月10日	
資本金	7,200万円	
社員数	184名	
建設業許可	国土交通大臣(特-3)第17091号	
一級建築士事務所	山口県知事登録 L-第449号	
宅地建物取引業許可	国土交通大臣(4)第8057号	
認証・登録	登録番号 Q413 ISO9001 (品質マネジメント)	登録番号 OH031 ISO45001 (労働安全衛生マネジメント)
	登録番号 0003119	エコアクション21
加盟団体	(一社)中国経済連合会 (一社)九州経済連合会 山口県経営者協会 下関商工会議所 (一社)JBN全国工務店協会 (一社)全国木造建設事業協会山口県協会 (一社)YBN山口県ビルダーズネットワーク (一財)下関21世紀協会 NPO法人 環境共棲住宅 地球の会 NPO法人 e小日本きくがわ(えこにっぽん) NPO法人 九州森林ネットワーク JCA 日本セルロースファイバー断熱施工協会 OMソーラーグループ 協同組合 木の家の健康を研究する会	
本社	企画室	経営企画本部
	建築事業部	商業開発部
住所	〒751-0865 山口県下関市綾羅木新町3丁目7-1	
代表	TEL 083-252-2419	FAX 083-252-2720
企画室	TEL 083-252-2478	FAX 083-252-2701
建築事業部	TEL 083-252-2235	FAX 083-252-2750
商業開発部	TEL 083-242-0047	FAX 083-242-0048



1

下関支店 (木の家づくり展示館)

〒751-0865 山口県下関市綾羅木新町3丁目7-1
TEL 083-252-2230 FAX 083-252-2721

2

福岡支店

〒812-0015 福岡県福岡市博多区山王2丁目1-16
TEL 092-433-1177 FAX 092-433-1178

3

北九州支店 (木の家づくり展示館)

〒800-0226 福岡県北九州市小倉南区田原新町2丁目4-1
TEL 093-475-2323 FAX 093-475-2335

4

宇部支店

〒755-0034 山口県宇部市東琴芝2丁目1-31
TEL 0836-35-8678 FAX 0836-35-6595

5

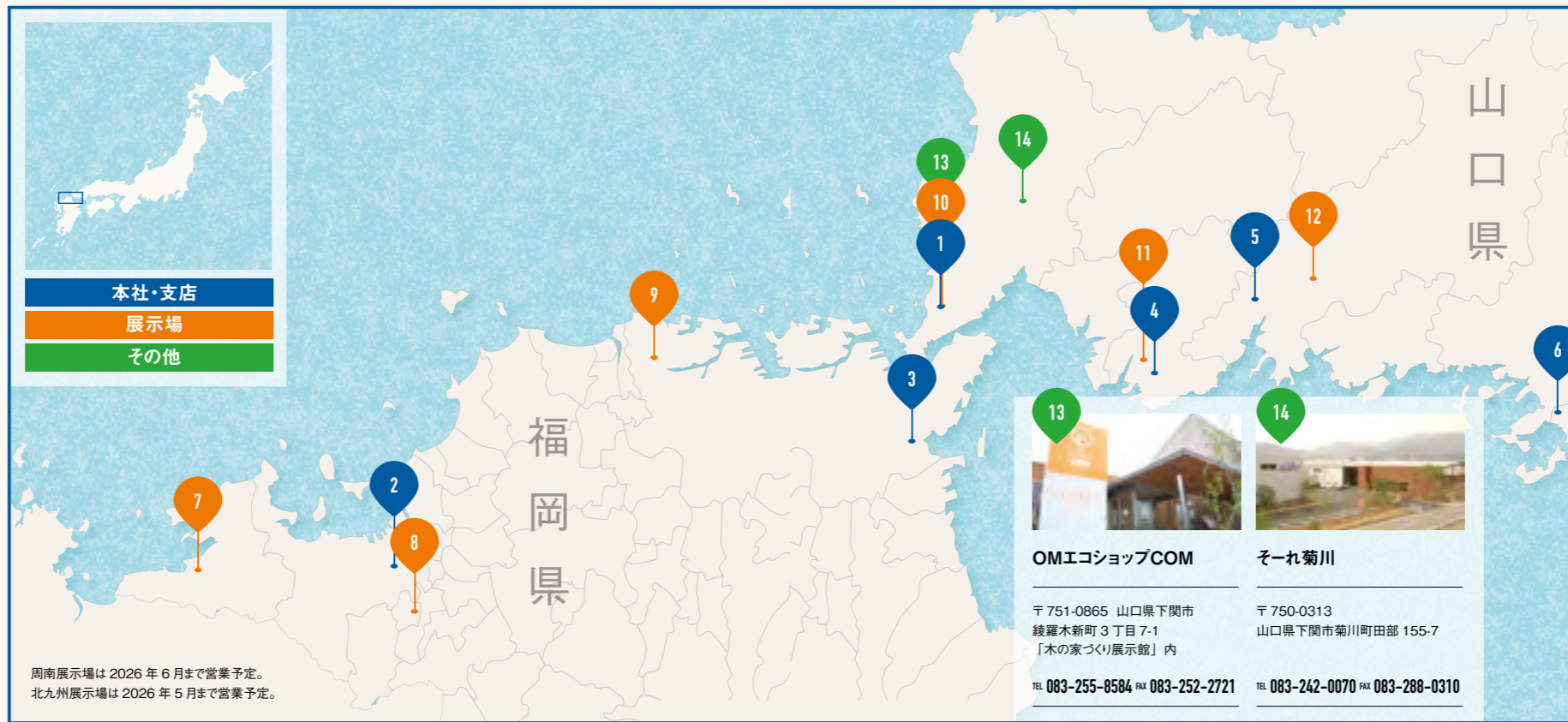
山口支店 (nenrie山口)

〒754-0023 山口県山口市小郡前田町1番7号
TEL 083-974-5700 FAX 083-974-5701

6

周南支店

〒744-0075 山口県下松市瑞穂町1丁目14-15
TEL 0833-44-5020 FAX 0833-44-5010



7

糸島モデルハウス

〒819-1601 福岡県糸島市二丈深江8-10-23
TEL 0836-39-8396 FAX 0836-39-8397

8

福岡南展示場(ヴォーク)

〒816-0956 福岡県大野城市南大利1丁目1-1
hit 大野城住宅展示場
TEL 092-558-8250 FAX 092-558-8251

9

ひびきの展示場

〒807-0807 福岡県北九州市八幡西区本城学研大1-1-108
TEL 0836-39-8396 FAX 0836-39-8397

10

下関展示場(ラフィネ)

〒751-0865 山口県下関市綾羅木新町3丁目7-1
TEL 083-252-2230 FAX 083-252-2721

11

宇部展示場(フィーノ)

〒755-0803 山口県宇部市東藤曲2丁目4-30
TYS ハウジングプラザ宇部内
TEL 0836-39-8396 FAX 0836-39-8397

12

山口展示場(ラルジュ)

〒753-0211 山口県山口市大内長野511
TYS ハウジングプラザ山口サエラ内
TEL 0836-39-8396 FAX 0836-39-8397

組織図

安成工務店

● 建築事業部

- 賃貸マンションの設計・施工
- 戸建て賃貸住宅の設計・施工
- 医療福祉施設の設計・施工
- オフィスビル・商業施設等の設計・施工
- 工場倉庫・その他建築物の設計・施工

山口建築部	福岡建築部	設計部
-------	-------	-----

● 住宅事業本部

- 環境共生型戸建住宅の設計・施工
- エコタウンの開発・分譲
- 省エネ躯体の開発・研究

企画室	住宅管理部
下関支店	山口支店
宇部支店	周南支店
福岡支店	北九州支店

● 商業開発部

- 商業施設の開発・管理・運営
- 商業施設開発のコンサル業務
- 土地活用事業の企画・開発

● 経営企画本部

- 総務、経理、財務

経営企画室	総務・経理
-------	-------

経営概況・売上高推移

安成工務店は住宅・建築・商業開発で25:60:15の割合の売上構成を持っている。住宅事業は自然素材住宅・省エネ高級住宅に特化し、建築事業は設計施工が全体の95%を占める企画開発型の業態が特徴である。3つ目の事業の柱である商業開発では27カ所、234haの事業借地を行いネイバーフッド型の商業施設を開発し運営している。今後はPFYや中心市街地の再生などまちづくりを視野に事業拡大を図る計画である。環境共生・省エネに関する実績は同業他社と比較して群を抜いており、全国の地方建設業の中ではトップレベルである。

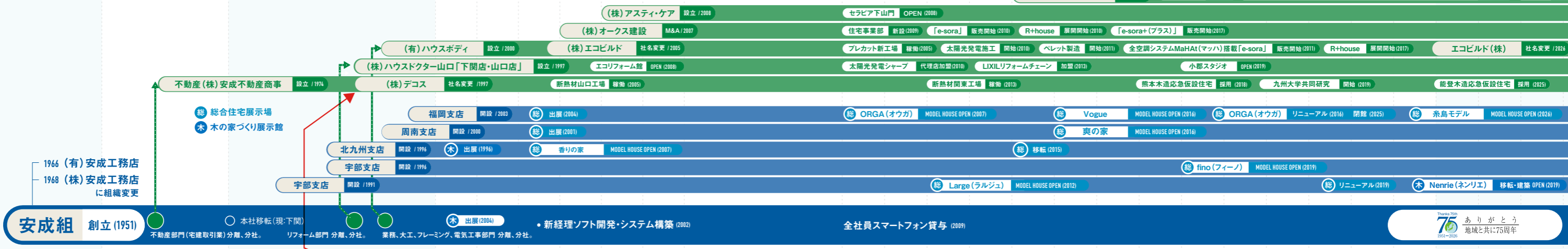




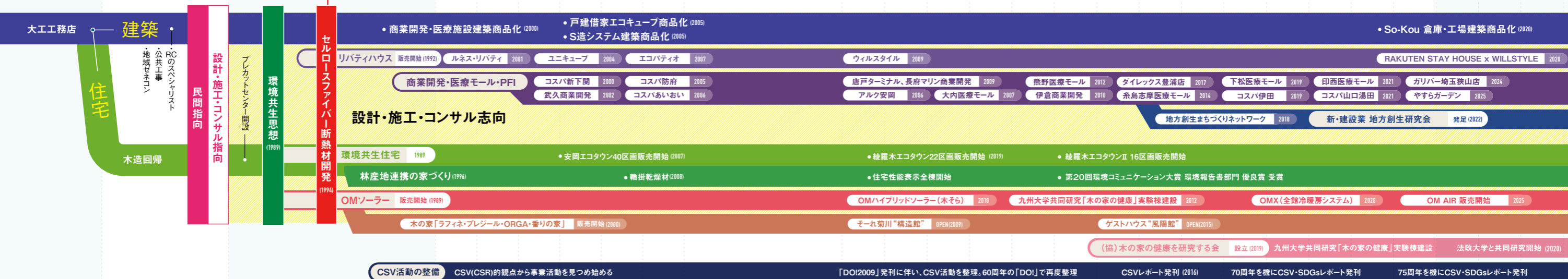
YASUNARIグループの変遷とCSV活動

安成工務店は大工工務店に端を発し、昭和50年代にはコンクリート造や鉄骨造もこなす地域ゼネコンへと成長しました。社会に対する貢献意識は当時から高く、昭和51年の創業25年には記念事業として、豊北町の老人会会員のお年寄りをお招きして演芸ショーを実施し、全社員でおもてなしをしています。平成に入り、環境を意識する経営方針を持ち始めますが、地域への寄付や清掃活動や幹部社員がまちづくり活動に関与するなど限定的なものでした。平成21年に社外報Do!2009を発刊する際に、現在行っているCSR(企業の社会に対する責任)に相当する行動をまとめ、改めて活動の幅や深さを再認識しました。それはCSRと言うより、むしろCSVの概念に近く、事業内容そのものが目指すべき社会と同ベクトルの経営を志向していました。それらの根底には「心を大きく持ち、事に当たるに誠実を以ってし、世間に感謝して日々を過ごせ」の社訓が息づいています。

グループ会社沿革



安成工務店の事業展開とCSV



YASUNARI SHINJI

CHAIRMAN'S MESSAGE



地域に必要とされる
会社を目指して

Harnessing Wood, Growing Communities

木を活かし、まちを育てる。

KEYWORD

地方工務店の逆転戦略

TITLE

呼吸する木の家から
まちのインフラまで。

CSVを経営の軸に、住宅・建築・商業開発の三本柱で地域課題を事業で解く。呼吸する木の家と官民連携の場づくりで、助け合いが循環するまちの未来へ。創業75年、第5ステージ始動。

13年前に、マイケル・ポーター博士のCSV（Creating Shared Value）という、社会課題の解決と企業の競争力向上を同時に実現するという概念に出会った時、私たちYASUNARIグループが目指している事業概念に極めて近いため、安堵感を覚えたことを思い出します。

創業から75年、私が先代から事業を引き継いで38年の月日が流れました。お客様から認められたい。評判が次の受注につながる。そしてその仕事を社員一体となって誠心誠意を込めて仕上げる。そして評判が評判を産み、仕事が絶えない。そのような唯一無二な会社になりたい。との強い想いで経営をしてきました。

エリア拡大と資産形成 地方建設業の生存戦略

私と会社の生まれた豊北町は、下関市から北に1時間ほど入った響灘に面した町で、最盛期の人口が2万7千人、そして、現在が7千人強の過疎の代表のような町です。そのため、人が減る社会、人が減少すればそれ以上に活力も減少する様を肌感

覚で身に着けました。また、会社そのものが内部留保も資産も少なかったため他地域へのエリアの拡大と、事業活動をしながら不動産資産形成を同時に計ることに力を入れてきました。

まだまだ、目標にはほど遠い状態ですが、40年近い社長業の中、住宅・建設業として確信に至ったことがあります。まず家づくりですが、日本の住宅政策は高度成長の時代の都市への人口移入の中で如何に大量に住宅を供給させるかにありました。そこで発達したのがプレハブメーカーを中心とする工業化住宅です。石油由来の新材と呼ばれる建材をこぞって開発し、本物の材料に似せた偽物の建材であふれる住宅となりました。一方、地方の工務店は商品力や営業力で劣るため、6割だったシェアを落とし4割になろうとしています。

「呼吸する木の家」 天然乾燥材 × デコスドライ工法

住宅は本来地域産業で近くの山の木で地域の職人がつくり、長く家守をし住み継がれる。これが理想だったのに当時の工務店の家はデザインの

PROFILE

安成 信次

株式会社 安成工務店 代表取締役会長



1

性能的に見劣りがしました。私たちは、そのような中でデザインを磨き性能を上げ自然素材の家を作り続けてきました。40年経過し、今思うのは、地域経済を回し、人の健康改善に最適な家づくりはどう考えても天然乾燥構造材とデコスドライ工法（断熱工法）でつくる呼吸する木の家だということです。それを確かなものに知らしめるのは、私たちの家づくりが評価され、多くのお客様が列をなす状況を作るしか方法がありません。

**官民連携の実装
「やすらガーデン」**

建設業でのここ5年間で大きく変わったチャレンジは、従来のデザインビルドを更に進め、公共工事のPFI・PPPに徐々に実績を積み重ねていることです。2025年にOPENしたやすらガーデン（下関市）では、2万3千坪の総面積の中で1万坪が都市公園整備、1万坪が公共施設整備（支所、公民館、図書館、芝生広場、駐車場）、そして3,000坪の

余剰地（自由提案）に医療・障害者福祉、保育園、カフェ、レストランの配置を提案し、現在、一部は自ら経営しながらコミュニティ活性化の仕組みを模索しているところです。年間100回に及ぶセミナーやイベントを計画し、人が集まる仕掛けや人が助け合う場づくりの社会実験を実施しています。そうして、民間の力で助け合いの社会や、コミュニティの醸成が経済的に成り立つ仕組みを紡ぎだしたいと考えています。

**「助け合いの社会」を
どう実装するか**

商業開発も22カ所21haがこの5年で27カ所23.4haと増えてきました。同時に対応力、リーシング力、土地活用力がますますついたと考えています。住宅・建築・商業開発の3つの事業部をベースに社会課題解決に向かって邁進していきます。地域の人々が幸せになるために「助け合いの社会」を如何に実現するか?それを建設会社としてどう向き合うか?あるいはグループ各社が役割を補完しながら、多様なニーズに対応しつつ実現していきたいと考えているところです。

75周年を機に、安成工務店は第5ステージを迎えようとしています。それは、これまで目指してきたことを実現するために、また更に発展拡大させるためのスタートとして位置付け、会社の成長と社員個人の成長を同一ベクトル上に見据えつつ、地域社会に真に必要なとされる会社を目指します。

私は、先月2月24日の株主総会で社長を退任し会長となりました。昭和63年の就任から実に38年間に及びます。多くの「仕事というチャンス」を頂いたお客様に心より感謝申し上げます。ここまで来れたのも、共に挑戦してくれた社員や協力会社の皆様のお陰です。ありがとうございました。これからも、中村社長率いる安成工務店の第5ステージへの歩みを支えてまいります。



2



3

1/下関市立大学本館棟（下関市） 2/安岡エコタウン街並み（下関市） 3/下関市役所増築（下関市）

NAKAMURA KEI

PRESIDENT'S MESSAGE



共につくる。

つくるを超えて

The power to build tomorrow into our towns.

まちの明日に、実装する力。

KEYWORD

コミュニティ醸成

TITLE

住宅・建築・商業の三本柱で地域 OS へ。

創業75年の節目に、安成工務店は「木を活かし、まちを育てる。」を胸に、住宅・建築・商業開発の三本柱で地域と共創する次のステージへ進みます。現場主義と挑戦の風土を土台に、PPP/PFIや拠点運営を通じて、社会課題の解決と企業価値の両立を加速します。

このたび、株式会社安成工務店の代表取締役を拝命いたしました中村圭（なかむら けい）です。

創業 75 周年という節目に、38 年にわたり YASUNARI グループを牽引してきた安成信次会長の後任として、大きなバトンを受け取ることとなりました。この歴史ある会社の舵取り役を任されることに、身が引き締まる想いであると同時に、皆さんと共に未来を切り拓いていけることへの希望と意欲を強く感じています。

私は 1975 年生まれの 51 歳です。会長に比べると若輩の部類に入かもしれませんが、だからこそ見える景色、感じ取れる声もあると信じています。そして何より、私 YASUNARI グループで働く機会を与えてくれた先輩方や仲間、地域の皆さま、グループ内外の多くの方々に支えられて、今この立場に立たせていただいていることへの感謝を、改めてお伝えしたいと思います。

地域とともに歩んできた 75年の歴史を受け継ぎながら

安成工務店は、創業者・安成信良が掲げた社訓「心を大きく持ち、事に当たるに誠実を以ってし、世間

に感謝して日々を過ごせ」を礎に、山口・福岡を中心とした地域に根ざし、住宅・建築・商業開発の三本柱で歩んできました。

今日まで会社が在り続けてこられたのは、お施主様をはじめとする地域の皆さま、長年支えてくださっている協力会社の皆さま、そして何より現場の最前線で汗をかいてくれている社員・幹部の皆さんのおかげです。本当にありがとうございます。ここに深く感謝を申し上げます。

「つくる会社」から「共につくる会社」へ

いま、建設業を取り巻く環境は大きく変化しています。物価の上昇、人口減少や高齢化、公共予算の制約、人手不足といった社会課題が複雑化する中で、私たちの仕事もまた、変革が求められています。

そんな時代だからこそ、安成工務店は「建物をつくる会社」から、「地域の未来を共につくる会社」へと進化していくべきだと考えています。

その想いを象徴するようなプロジェクトが、すでに動き出しています。

2025 年 1 月にオープンした「やすらガーデン」（下関市安岡地区複合

PROFILE

中村 圭

株式会社 安成工務店 代表取締役社長

施設整備事業)は、行政機能・医療・福祉・飲食・子育てなどが一体となった多世代型の複合施設で、地域の皆さんと共につくり、今も一緒に育てている拠点です。

また、2027年6月には「ときわスクエア」(宇部市常盤通りにぎわい交流拠点利活用事業)がオープン予定です。商店街の空き店舗や未活用地に息を吹き込み、新たな交流と暮らしの質の向上を目指したチャレンジが進んでいます。

これらはすべて、「どんな未来を、誰と一緒に、どう創るか?」という問いへの私たちなりの答えでもあります。

私自身の想いと覚悟

私自身、前職の地域金融機関で多くの地域企業や地域経済に関わってきたなかで、事業とは「理念と実践の両輪」だと強く感じてきました。



そして34歳のとき、大きな病気を経験したことも私の人生観に大きな影響を与えました。人生の有限性を実感し、「限られた時間で、誰かの役に立つ仕事をしたい」「少しでも地域や社会に何かを残せる仕事をしたい」という想いが、今の私の原動力です。

そんな私の信条は、「今日とは違う明日を創る」ことにあります。

過去の延長線上に未来を置くのではなく、理想の未来から今何をするべきかを逆算し、共に仲間と現実を少しずつ変えていく。そのためには、理念だけでも、技術だけでも、資金だけでも不十分です。

大切なのは、「現場・数字・仕組み・ブランド・人材・DX」といった経営資源を統合して、組織全体を構造的な実行力へと高めていくこと。そしてグループ全体として最適化を図る「グループ経営」の視点を強く持つことです。

経営方針:3つの重点テーマ

これからの経営において、私が特に大切にしたいことを3つの柱にまとめました。

1 現場主義の徹底と挑戦する風土の再構築

「現場」が主語の経営を大切にします。現場にいる社員一人ひとりが主役となり、自ら考え、挑戦し、失敗からも学べる文化を育てたい。挑戦を肯定し、変化を楽しめる組織を、一緒につくってまいります。現場の声から新しい物語が生まれる、そんな会社になりたいと思います。

2 地域共創と収益性の両立

行政機能・医療・福祉・教育・観光・エネルギーなど、多様な分野と連携し、「社会課題の解決」と「企業としての収益性」を両立させるモデルを磨いていきます。PPP・PFI、M&A、異業種連携など、新たなスキームにも積極的に挑み、地域に選ばれ続ける会社を目指します。

3 グループ経営の進化と次世代への承継

私たち安成工務店だけでなく、グループ全体の力を束ねていきます。事業・人材・財務・理念の見える化と、部門・会社を超えた連携を強化します。若手や中堅が自分の名前で挑戦できる、そんな風通しのいい環境

づくりを進めます。また、これからの課題でもある前向きな世代交代が文化として根付くよう、事業の承継のあり方も深化させていきたいと考えています。

これからも“共に未来をつくる仲間”として

YASUNARIグループは、地域の課題解決を担う「地域のOS(オペレーティング・システム)」となることを目指し、住まい・暮らし・まちを支える存在として、次の成長曲線に挑戦してまいります。

グループ売上高300億円規模の早期実現を見据えながら、持続可能な地域社会づくりに貢献していきます。

最後にもう一度。

創業者が掲げ、安成会長がその事業に魂を込めた「世間に感謝して日々を過ごせ」という言葉を、私も改めて心に深く刻みたいと思います。

会長が築いてこられた歴史と信頼をしっかりと受け継ぎながら、少しずつでも、今日とは違う明日を創っていけるよう、幹部・社員の皆さんと力を合わせて進んでいきます。そして、協力会社の皆さま、地域の皆さまにも、改めて心からの感謝を申し上げます。

これからも「共に未来をつくる仲間」として、お力添えをいただけましたら幸いです。

今後とも、変わらぬご指導とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



左/やすらガーデン外観
上/2F階段よりロビーを望む
下/地域の子供とふれあう、もしもし書店でのイベント

建築事業部 福岡

KEYWORD

中高層レジデンス

TITLE

レジデンス設計施工に ノウハウあり



PROFILE

岩本 相栄

株式会社 安成工務店
建築事業部
常務取締役 / 建築事業部長

都市部における多様なレジデンス建築を通じて、収益事業と建築コストを長期的な視点で提案しているのが建築事業部 福岡です。

特にレジデンスは土地探しから建物計画、事業収支を一貫して提案する高度なノウハウを持っており、グループ会社の不動産会社ワイズパートナーが持つ入居者嗜好などのニーズを元に、最適解と言える建物計画を得意としています。

また、土地所有者のための相続相談は、「資産活用大学」として20年に渡りセミナーを継続しており高い評価を頂いています。

木造戸建借家から15階建ての中高層レジデンスまで、競合の激しい福岡都市圏で鍛えられたデザインとコスト概念は多くのお客様に評価を頂いているところです。私たちが重視しているのは、完成時の評価だけではなく、

ません。大切なことは使われ続ける中で価値を発揮する建築であることです。運営や維持管理、将来の更新までを視野に入れた計画と、確実な施工管理を積み重ねることで、建築が事業の負担や制約とならないよう支えています。

都市は常に変化し、建築に求められる役割もまた変わっていきます。

だからこそ私たちは、個人の経験や判断に依存するのではなく、組織としての知見の共有・技術と品質の継続的な向上・再現性のある体制構築を重視し、時代に応じた選択ができる事業部であり続けることを目指しています。

福岡に支店を置いて23年、福岡建築事業部は確実に地域の知名度を確立しています。これからはレジデンス以外にも徐々に得意分野を広げ、Dデザインビルドをテーマに、信頼に応える建築を積み重ねていきます。



左上 / あだち脳神経外科クリニック(糸島市:2017年) 左下 / もとよし耳鼻咽喉科(糸島市:2016年)
中 / ロイヤルタワー大川中央(大川市:2025年) 右 / YSP城野(北九州市:2024年)

建築事業部 山口

KEYWORD

Design Build

TITLE

企画提案型受注の 強みを生かす



PROFILE

松本 竜至

株式会社 安成工務店
建築事業部
取締役営業部長

建築事業部 山口は、山口県全域を対象に、公共工事だけに頼らず、民間をベースにデザインビルド型の受注を行う、地域ゼネコンとしての建築部門です。

地域に根ざし、店舗、事務所、倉庫・工場、クリニック、介護施設、葬祭会館など幅広い種別の建物を自社の設計施工で受注しています。

手がけてきた事業用建築は、使いやすさや耐久性、将来の拡張や更新までを見据えた計画と、確実な施工管理を積み重ねてきました。

また、お客様の多様化・高度化するニーズに応えるため、設計力の強化と施工技術の向上に継続して取り組んできました。計画段階から事業目的を深く理解し、コスト・品質・工程の最適化を図りながら、安心して長く使える建築を実現しています。

医療分野では、業務動線や衛生面、

来院者の安心感に配慮した空間づくりを重視し、事業者の想いを丁寧に形にしてきました。また、事務所や倉庫においても、事業内容や地域条件に応じた合理性と、長く使われる品質の両立を大切にしています。

近年は、従来分野で培った経験値を活かし、官民連携事業(PPP・PFI)にも挑戦しています。施設を建てることにとどまらず、計画段階から関わり、運営や将来の更新までを見据えて事業全体を考える姿勢が求められる分野です。

私たちは、地域とともに歩み続ける企業として、山口県内におけるBtoB建築分野でのNo.1を目指し、設計力と施工力をさらに高めながら、持続可能で価値ある建築と事業づくりを推進してまいります。



左上 / シニアハウスセービング浜町(宇部市:2023年) 左下 / 下関市立大学データサイエンス棟(下関市:2025年)
中 / シダー本社(北九州市:2022年) 右上 / JA山口県下関統括本部支所(下関市:2019年) 右下 / 三和ショールーム(宇部市:2017年)

住宅事業本部

KEYWORD

環境共生住宅

TITLE

健康で快適・安全な
自然素材住宅
「呼吸する木の家」



PROFILE

弘中 一久

株式会社 安成工務店
住宅事業本部
取締役 / コンセプトレイダー

住宅事業本部は、住まいを単なる「家を建てる仕事」ではなく、「暮らしを育てる仕事」と捉え、地域に根ざした家づくりを続けてきました。住まいは完成した瞬間がゴールではなく、住み手の人生とともに時間を重ね、価値を深めていく存在です。

1989年から歩み始めた環境共生住宅の道には、OMソーラー、セルロースファイバー断熱材、そして大分県上津江村の林産地連携などの多くのかげがえのない出会いがありました。

以来、30有余年、私たちは国産材や自然素材を用い、断熱・耐震・耐久性といった性能を高めると同時に、四季や風土を感じられるデザインされた豊かな空間づくりを目指してきました。九州大学との杉内装材の健康への影響度を測る研究からも自然素材の健康性の確信を得ました。現在、私たちの家づくりは間違っていないとの想

いはますます大きくなりました。

脱炭素の時代が到来し、建物のアップフロントカーボンの低さが問われる今後、私たちの優位性は大きくなります。

人々の営みは、地域の気候風土や文化、自然環境によって育まれています。この環境への感謝を忘れず、家づくりを通じて地域循環や森林資源、地球環境に配慮する住まいと人を育むことも、私たちの使命です。

これまで積み重ねてきた技術と未来を見据えた考えを社員一人ひとりが共有し、同じ思いで仕事に向き合うことで、これから先も安成工務店らしい、より良い住宅を提供できる体制を整えていきます。

これからも住宅事業本部は、時代が変わっても、世代を越えて評価される住まいづくりを通じて、地域の暮らしを支え続けていきます。



左/O様邸(萩市:2020年) 右上/自然素材の木の家の内観 右下/Y様邸(佐賀市:2025年)

商業開発部

KEYWORD

地域に“実感のある変化”

TITLE

「使われ続ける理由」をつくる
商業開発



PROFILE

宮崎 克史

株式会社 安成工務店
商業開発部
取締役事業部長

機能も変わります。だからこそ、企画の段階から行政、事業者、地域の方々と意見を交わし、開業後の運営や将来の更新までを含めて考え抜きます。

不確実性の高い時代において重要なのは、個人の経験則に依存しすぎないことだと考えています。組織として常に新しい知見の収集に努め、検証と改善を重ねながら、状況に応じて柔軟に方針を調整していく。その積み重ねが、結果として地域にとって意味のある開発につながると信じています。

商業開発部は、地域の未来に実感のある変化をもたらす存在でありたいと考えています。次の世代が引き継ぎ、更新しながら使い続けたいと願いたくなる「場所の物語」を、これからもつくっていきます。

商業開発部は、広い意味での「商業地の開発」に取り組んでいます。言い換えれば、地域に必要とされる人の集積施設（にぎわい）づくりを日々企画する仕事です。

それは四半世紀前の「コスパ新下関」開発に始まり、今日では商業的な側面を含む公民連携事業にも及んでいます。

私たちは多様なプロジェクトを通じて、地域のみなさまの日常に具体的な機能と選択肢を増やしてきました。

重視しているのは、話題性や一時的な集客ではなく、暮らしや仕事の中で「使われ続ける理由」があるかどうか。その場所が、地域にどんな役割を果たし、どんな行動を支えるのかを丁寧に設計することです。

私たちの開発に、完成という明確な終着点はありません。社会環境や地域の状況が変われば、求められる



左/コスパ新下関 右/伊倉商業施設

経営企画本部

KEYWORD

企業基盤の構築

安成工務店各部署
グループ各社の企業基盤構築

経営企画本部は、経営企画室と総務部で構成され、YASUNARIグループが長期にわたり継続し、健全に成長していくための基盤を担っています。事業の最前線に立つ部門ではありませんが、組織の方向性を整え、仕組みを磨き、未来へつなぐ土台を築くことが私たちの役割です。

私たちが拠りどころとしているのは、社訓にある「心を大きく持ち、誠実に向き合い、感謝を忘れない」という姿勢です。そして、従業員とその家族、協力会社や取引先、顧客、地域社会、株主という五つの立場が調和してこそ企業は持続するという「五方よし」の視点を、日々の判断の中心に据えています。

経営企画室では、自社が代表として関与している官民連携事業にも関わり、PPP・PFIを通じて行政や地域と対話を重ねながら、短期的な成

果にとらわれない事業運営の仕組みづくりを進めています。また、システム課を中心にDXを推進し、情報と数値をリアルタイムで共有できる体制を整えることで、組織全体の意思決定の質を高めています。

総務部は、YASUNARIグループ各社の経理事務を担い、原価管理や情報共有を通じて経営の透明性を支えています。同時に、人材育成や若手採用、従業員満足度の向上、健康経営にも取り組み、社員が安心して挑戦できる環境を整えています。

経営企画本部のグループ会社間の人と組織、事業と地域を結ぶ要としての役割は今後ますます大きくなっていきます。経営企画本部チーム全員で、安成工務店のみならず、グループ全体の揺るぎない企業基盤を築き続けていきます。



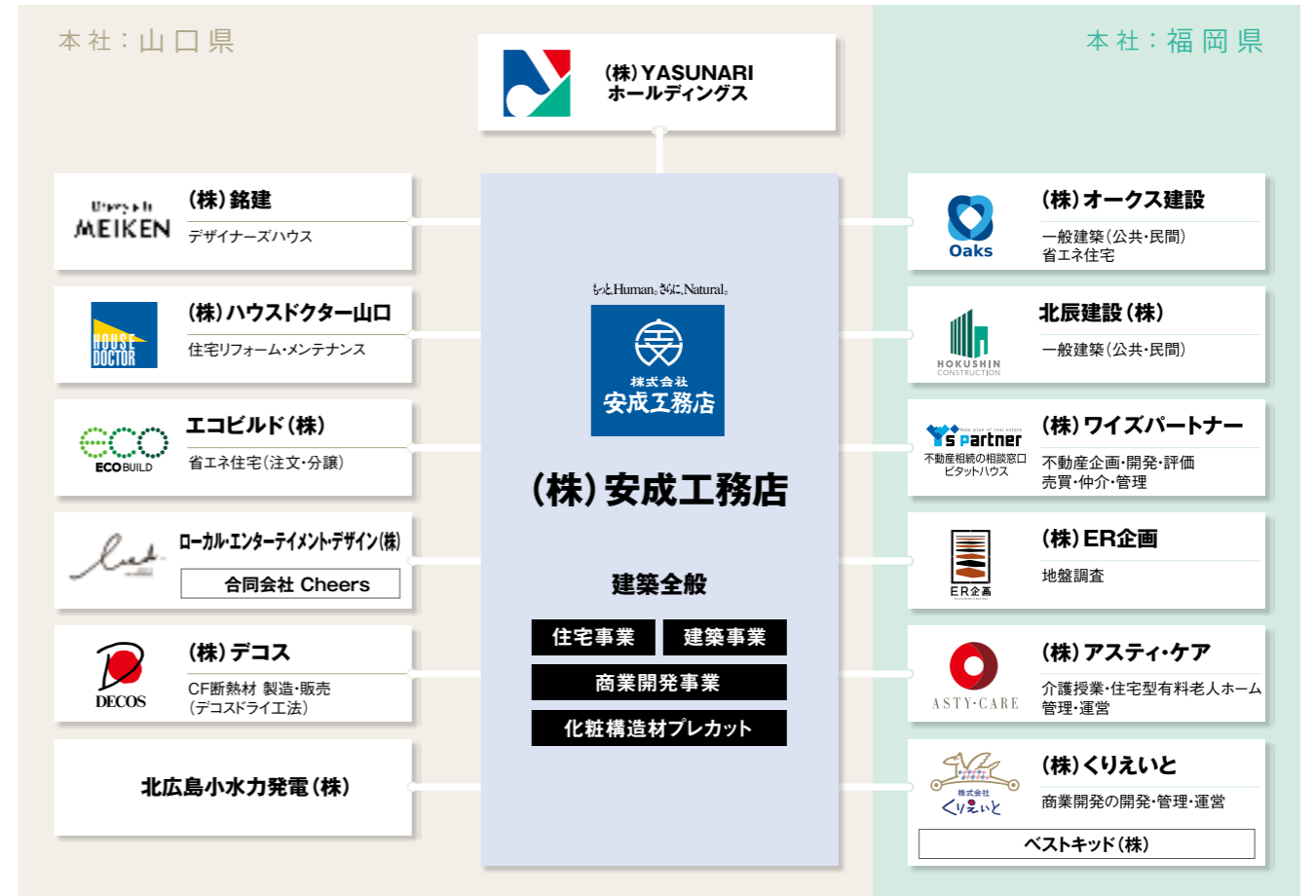
やすらガーデンアートライフラボ 2025年

PROFILE

藤本 圭二郎

株式会社 安成工務店
経営企画本部
取締役経営企画本部長

YASUNANRI グループ相関図



株式会社 YASUNARI ホールディングス

代表者 安成 信次
設立 2019年11月11日
資本金 900万円
社員数 5名
本社 山口県下関市綾羅木新町3丁目7-1
事業内容 自社建物賃貸管理運営
民泊施設管理運営

YASUNARI グループの基本的な考え方

YASUNARIグループは昭和26年創業の安成工務店を中核とした16社からなる企業グループです。持ち株会社1社、住宅・建設会社5社、住宅リフォーム会社1社、不動産会社1社、商業施設開発・運営会社1社、断熱材製造販売1社、地盤調査1社、介護事業者1社の構成となっています。

請負業としての建設業態から進化し、企画・開発・設計・施工・管理をトータルに提案し施工し且つ管理し、そのような新たな建設業態を「創注型建設業」と名付け目標としています。そのためには、住宅・建設、その関連の業態を持つグループ各社は、それぞれの業態を磨き、よりコンサルティング能力を高め、クライアントのあらゆるニーズに対応するために、技術とサービスの質を高める事が不可欠と考えています。

高度成長の時代を経て構築された現在のまち

の姿は、今後、人口減少する過程で再構築を求められますが、再構築されるまちは、これまでのような画一的で特徴のないコミュニティの形成が難しく、まちから、地域の特徴を生かし美しく誇れるまちであるべきです。地域全体のデベロップメントの重要性を知り、それを成し得たまちが次世代に魅力あるまちとして認められます。私たちはその役目に果敢にチャレンジする精神と能力を兼ね備えた総合建設業グループでありたいと思います。また、地域密着型産業でもあることから、地域の雇用、建設従事技能者の雇用を守り、地域経済を活性化させる役目も果たしながら、より良い社会をつくるために、社会課題の解決を目指し、私たちは挑戦を続けていきます。

私たちのグループは、社会インフラを作り、守る役目を認識すると共に、今後、人口減少する地方都市において、街の景観を再構築し、地方都市における街づくりを担うグループ力を確立していきたい。そして、建設従事者が誇りをもって仕事ができる環境を創っていきます。

株式会社 オークス建設



代表者 岡田 圭三
 設立 1973年1月18日
 資本金 5,000万円
 社員数 37名
 本社 福岡県福岡市博多区山王2-1-16
 電話番号 092-432-4440
 HP <https://oaks-cnst.com>
 事業内容 総合建設業
 (建設・不動産、省エネ住宅、
 ビル・マンションリフォーム、賃貸ビル)



建設業許可 福岡県知事許可(特-3)第52016号
 宅地建物取引業 福岡県知事(14)第3523号
 一般建築士事務所 福岡県知事登録 第1-11097号

KEYWORD

福岡市中堅ゼネコン

TITLE

レジデンス系中高層建築と戸建デザイナーズ住宅

(株)オークス建設は、福岡市での1973年の総合建設業として創業以来、お客様のさまざまな要望にお応えしてきました。建築事業部は福岡市を中心に民間の中高層レジデンス系建築物や福岡県・市発注の工事や医療、商業施設などの施工も幅広い実績を有しています。特に市内中心部では、地価高騰に伴い狭小地に難易度が求められる高層建築物を施工する物件に高評価を頂いています。また、住宅事業部は、都市型デザイナー戸建住宅を提案しています。住宅の温熱性能を高めエネルギー消費の少ない住宅にすると同時に、太陽光などの自然エネルギーを活用する「ゼロエネルギー住宅」の普及にも取り組んでいます。今後も新たな時代へのニーズに対応できる技術力の高い社員を育成し、DXを進め、社会に必要とされる建設会社を目指します。

PROFILE

岡田 圭三

株式会社オークス建設
 代表取締役



エコビルド 株式会社



代表者 樋口 光浩
 設立 1986年4月3日
 資本金 1,000万円
 社員数 30名
 本社 山口県下関市田倉755
 電話番号 083-256-5361
 HP <https://eco-build.co.jp>
 事業内容 総合建設業・省エネ住宅
 リフォーム
 不動産業



建設業許可 山口県知事(般-7)第13308号
 宅地建物取引業 山口県知事(5)第3037号
 二級建築士事務所 (二級)山口県知事 第4332号

KEYWORD

分譲から注文住宅まで

TITLE

高い温熱性能 × ハイセンスなデザイン性

エコビルド(株)は山口県下関市を拠点に、分譲・注文住宅から店舗・クリニックなどの非住宅建築、宅地開発までを手がける総合建築会社です。YASUNARIグループの中では、特に分譲に強いことが特徴ですが、見た目や流行に流されることなく、暮らしに向き合い、長い期間の使い勝手を見据えた質の高い設計提案と、高い施工品質を何よりも重視しています。これからは地域に根ざし一棟一棟真摯に向き合い、実績を積み重ねて参ります。昨年末に、旧(株)エコビルドと(株)下関ハウジングの統合を経て新たに30名の社員でスタートを切りました。また、2026年1月にスタートしたOMソーラー(株)の新たな高性能デザイナーズ住宅FC「Passina」の先行加盟店として、他社をリードする役割を担います。これを機に、グループの中核住宅会社となるよう、今年は基礎固めの年とします。

PROFILE

樋口 光浩

エコビルド 株式会社
 代表取締役



株式会社 銘建



代表者 入江 祐二
 設立 1977年2月10日
 資本金 2,000万円
 社員数 43名
 本社 山口県防府市佐波1-9-5
 電話番号 0835-23-8500
 支店 スタジオ)周南・山口 無印良品の家)山口店
 展示場)LisM Cafe&Lifestyle
 HP <https://meiken.jp>
 事業内容 総合建設業・リフォーム
 デザイナーズハウス・不動産業



建設業許可 山口県知事(般-3)第7149号
 宅地建物取引業 山口県知事(13)第1168号
 一般建築士事務所 山口県知事(H)第1114号

KEYWORD

高性能。デザイナーズ住宅

TITLE

住宅から、非住宅木造建築物まで全て担当!

(株)銘建は山口県産材を構造材に活用して人と環境に優しい住まいを提供する住宅会社です。私たちはお客様第一を基本として、住まれる方の理想のライフスタイルで快適に生活できるように高品質・高性能でデザイン性に優れた住宅をご提案しています。また、新築の住宅以外にも改修工事から住宅の性能向上の断熱改修工事などのリフォーム・リノベーション工事なども手掛けております。住宅以外の建物では木造の賃貸物件や事務所、店舗、介護施設などの非住宅の木造施設建設にも注力しています。銘建は今迄磨き続けてきた“銘建Style”を、より一層洗練させてデザイン力と提案力を軸としたブランド戦略を強化してまいります。お客様の“暮らしを豊かにする住まいづくり”、これが(株)銘建の社員全員のミッションです。

PROFILE

入江 祐二

株式会社銘建
 代表取締役



株式会社 デコス



代表者 安成 信次
 設立 1974年8月30日
 資本金 3,000万円
 社員数 29名
 本社 山口県下関市菊川町田部155-7
 電話番号 083-288-0300
 支店 東京OFFICE/福岡OFFICE
 工場 山口工場/関東工場
 HP <https://www.decocos.co.jp>
 事業内容 断熱材製造販売・施工、FC事業、



建設業許可 山口県知事許可(般-2)第11804号

KEYWORD

断熱は施工が命

TITLE

室内の心地よさを、カーボンネガティブで。

(株)デコスは、新聞紙をリサイクルしたセルロースファイバー断熱材の製造・販売・責任施工を通じて、快適な居住環境と建築物の脱炭素化に貢献しています。植物原料由来のバイオジェニックカーボンを建物内に長期固定し、製造・施工時の排出量を上回るCO₂削減効果を実現しました。カーボンネガティブを達成した唯一の断熱材として高い評価を受けています。さらに、通常、各メーカーとも高い性能の断熱材を販売するものの、その施工にはコミット出来ない商慣習があります。しかし、(株)デコスでは、全国の施工代理店ネットワークを通して、適切な施工密度と品質管理基準のもとで断熱性能を確実に発揮する施工管理を行っています。これからも、(株)デコスは、少ないアップフロントカーボンと炭素の固定、更に性能の担保を両立し、住まいの心地よさの実現に貢献しています。

PROFILE

竹之内 貴浩

株式会社 デコス
 専務取締役



北辰建設 株式会社



代表者 立道 昇二
 設立 1970年8月11日
 資本金 2,500万円
 社員数 11名
 本社 福岡県福岡市博多区麦野4丁目3番1号
 電話番号 092-581-5231
 HP <https://www.hokushin-cnst.co.jp>
 事業内容 総合建設業



建設業許可 福岡県知事(特-3)第30014号

KEYWORD

鉄骨造建築物

TITLE

公共工事とS造ローコスト工法が特徴です

北辰建設(株)は創業以来55年間、福岡の地で公共工事を中心とした建築事業に数多くの実績を積み重ねてきました。昨年度は福岡市の工事成績優良業者の表彰も受けることができました。民間工事に於いても鋼構造物に大きな特徴を持ち、大型物流倉庫・店舗・事務所・酪農畜舎等の数多くの実績を積み重ねました。今後は、小規模ながら少数精鋭で「建築」という形の「モノ」を作る仕事に誇りを持ち、DXを推し進めてまいります。また、長年の経験を活かし、高品質な工事を、より短工期、且つ低価格でご提供できるように努力を続けてまいります。「エコアクション21」「ISO9001」等の環境マネージメントを行いながら、地域貢献活動に積極的に取り組み、社会に貢献できる「建設会社」を目指してまいります。

PROFILE

立道 昇二

北辰建設 株式会社
代表取締役社長



株式会社 ワイズパートナー



代表者 岩本 相栄
 設立 2015年12月3日
 資本金 1,000万円
 社員数 31名
 本社 福岡県福岡市博多区山王1丁目16-33
 電話番号 092-432-6330
 支店 高宮店・八幡店
 ピタットハウス 博多筑紫通り店・吉塚店
 HP 小倉駅南口店・城野店
<https://ys-p.com>



事業内容 総合不動産業・企画・開発・評価・売買・仲介・管理

宅地建物取引業 福岡県知事(3)第18050号
 賃貸住宅管理業 国土交通大臣(1)第007745号
 住宅宿泊管理業 国土交通大臣(1)第F03079号

KEYWORD

不動産 DX

TITLE

建設を知り尽くし、不動産価値の最大化を図る

2015年、安成工務店のPM事業部から独立して設立したワイズパートナーは、お客様の真のパートナー(Your partner)を目指し名付けました。一般的な不動産業者との大きな違いは、私たちが「建築のプロ」であることです。これまで福岡県内に豊富な中高層レジデンスの建築実績を有していますので、入居者目線のPLANやオーナー目線の建物耐久性や維持管理コストの低減などに独自のノウハウを持っています。また、全国ネットの「ピタットハウス」のパートナーとして、博多筑紫通り店、吉塚店、小倉駅南口店、城野店の4店舗を展開し、他に単独店舗として山王本社、高宮店、八幡店の6店舗体制で営業しています。「不動産価値の最大化」——。管理から賃貸・売買・仲介、相続まで、建物を知り尽くした私たちがからこそできる提案で、あなたの資産を支えます。

PROFILE

岩本 相栄

株式会社 ワイズパートナー
代表取締役



株式会社 ハウズドクター山口



代表者 安成 信次
 設立 1997年7月1日
 資本金 2,000万円
 社員数 19名
 本社 山口県下関市秋根東町2番26号
 電話番号 083-263-2700
 営業所 山口店・宇部店
 HP <https://www.housedoctor.jp>
<https://www.housedoctor-renovation.jp>
 事業内容 リフォーム・メンテナンス・リノベーション



本サイト



リノベーション
サイト

建設業許可 山口県知事(特-3)第17320号
 二級建築士事務所 (二級)山口県知事 第4291号

KEYWORD

リフォーム・コンビニエンス

TITLE

困ったときの街角リフォーム・ショップ

創業以来、地域に根ざし、住まいのメンテナンスからリフォーム、リノベーションまで幅広く手がけ、来年、30周年を迎えます。建物に不可欠な維持管理を担い、困った時に真っ先に頼られる、地域になくはない存在を目指してきました。「私たちがいるから安心して暮らせる」と思っていただけなのが誇りです。培った知識とノウハウに留まらず進化を続け、あくまで挑戦を続けます。この4月に、長い時間をかけ試行錯誤を重ね完成させたリノベーションモデルハウスがOPENします。新築同等の温熱性能、耐震性能も向上させたリノベモデルを是非、体感してください。最良最善の提案を通じて感動と笑顔を生み出し、地域で最も多くの人を喜ばせることができるリフォーム会社として、これからも学びと挑戦を重ねてまいります。

PROFILE

水馬 健太郎

株式会社 ハウズドクター山口
常務取締役



株式会社 くりえいと



代表者 宮崎 克史
 設立 1988年6月8日
 資本金 1,000万円
 社員数 19名
 本社 福岡県宗像市くりえいと2-3-1
 電話番号 0940-38-8100
 HP <https://www.create-munakata.co.jp>
 関連会社 ベストキッド株式会社
 株式会社エスコム
 都市再生推進法人てんとせん
 事業内容 まちづくり事業全般・商業施設開発・管理・運営



建設業許可 福岡県知事(般-6)第117175号
 宅地建物取引業 福岡県知事免許(1)第19788号
 旅行業 福岡県知事登録 2-1045号

KEYWORD

共感の場づくり

TITLE

集い、安心し、始められるまちへ。

株式会社くりえいととは、福岡県宗像市を拠点に、不動産活用や商業施設運営、都市再生、子育て支援などを通じてまちづくりに取り組む企業です。事業領域は幅広いものの、その軸にあるのは、人と人、人と地域が自然につながる「共感の場づくり」です。空き家や空き店舗を単なる未利用資産として扱うのではなく、使い方から価値を再編集し、地域に小さな挑戦や出会いを生み出しています。宗像市から都市再生推進法人に指定していただくなど、継続的な取り組みを続けてまいりました。くりえいととは、派手な開発よりも、日常の中で人が集い、安心し、何かを始められる場を丁寧に育てることを大切にしています。今後も地域社会の変化のなかで、考え、答えを求め続けることで、かたちをもたない「なんとなく幸せ」をつかっていきたいと願っています。

PROFILE

宮崎 克史

株式会社 くりえいと
代表取締役



ローカル・エンターテイメント・デザイン 株式会社

代表者 中村 圭
 設立 2022年12月28日
 資本金 300万円
 社員数 18名
 本社 山口県下関市綾羅木新町3-7-1
 事業内容 地域振興・地域活性化事業
 施設 もしもし書店 cafe&books・TAGLINE
 シェアハウス つなぐラボやすおか
 関連会社 合同会社Cheers



KEYWORD

地域の「場」と「時間」をデザイン

TITLE

暮らしの体温を上げる、まちなみ実装力。

安成工務店が75年の歩みで培ってきた住宅・建築・商業開発の知見を基盤に、地域の「場」と「時間」をデザインし、グループの挑戦を社会へ実装する事業会社として設立されました。ミッションは、少子高齢化や労働力不足等の地域課題に対し、多世代・多文化が交差するコミュニティを再編集することです。「やすらガーデン(下関市安岡地区複合施設)」周辺のエリアマネジメントをはじめ、直営カフェ「もしもし書店cafe&books」やシェアハウス「つなぐラボやすおか」、福祉複合施設「イシノチカラ」の運営など、地元事業者の皆様と医療・保育・福祉・文化を横断的に連携させた持続可能なまちづくりを推進。ハードを造るだけでなく、運営を通じて地域の「暮らしの体温」を上げ、選ばれる共有地として地域のOSをアップデートし続けます。

PROFILE

中村 圭

ローカル・エンターテイメントデザイン株式会社
代表取締役



株式会社 アスティ・ケア

代表者 中村 輝寿
 設立 2008年1月10日
 資本金 3,000万円
 社員数 38名
 本社 福岡県福岡市博多区山王2丁目1-16
 電話番号 092-405-0407
 関連施設 住宅型有料老人ホーム セラピア下山門
 HP <https://www.asty-care.com>
 事業内容 介護事業・住宅型有料老人ホーム管理運営



KEYWORD

快適な高齢者居住

TITLE

心のこもった、真心介護

私たちは「街(アスティ)の介護(ケア)」の名のとおり、普通に暮らしながらの介護を目指して介護事業を行っています。2008年の設立以来、住宅型有料老人ホーム「セラピア下山門」の運営を中心に、高齢者が安心して暮らせる住まいと、訪問介護サービスソフンを提供しています。YASSUNARIグループが住まいづくりで培った経験を生かし、バリアフリー設計や24時間体制の見守り環境を整備。日常生活の支援から緊急時対応まで、きめ細かなケアを行っています。また、安心・安全に生活ができる質の高い介護サービスの提供を心掛けています。これからも、入居者一人ひとりの尊厳を大切に、地域とつながる温かみのある介護を通じて、ご家族やご友人に囲まれ、心から癒される時間・空間を感じられるようなサービスに努めてまいります。

PROFILE

中村 輝寿

株式会社 アスティ・ケア
代表取締役



株式会社 ER企画

代表者 安成 信次
 設立 2020年6月1日
 資本金 1,000万円
 社員数 4名
 本社 福岡県福岡市博多区山王2丁目1-16
 電話番号 092-292-5566
 HP <https://erkikaku.com>
 事業内容 地盤調査



KEYWORD

地盤・気密調査専門店

TITLE

精緻な調査、結果低改良率

ER企画は戸建住宅を対象とした地盤調査会社です。この業界は地盤改良会社が調査も行うといった業態が過半を占めます。いわば、地盤判定がグレーの場合、全て改良側に判定されるといったことが多く、改良率が4割を超える状況になっています。ER企画は(株)アースレイズ(埼玉県:地盤調査・構造事務所)と提携して地盤調査を行っています。特徴は、通常のSS式地盤調査に加え、支持地盤までのハンドオーガーパーリング試験(土質調査)を行い判定することです。これにより、精緻な判定が可能となり、結果、改良率が低下する事となり多くの住宅会社より高評価を頂いています。偽の安心の名の元に必要のない杭施工や地盤改良を行う事自体、環境を大きく棄損し、アップフロントカーボンを増大させる行為です。ER企画は今後も脱炭素社会に必要なとされる地盤調査会社を目指します。

PROFILE

伊藤 優介

株式会社 ER 企画
取締役



北広島小水力発電 株式会社

代表者 安成 信次
 設立 2022年11月1日
 資本金 2,000万円
 社員数 2名
 本社 広島県山県郡北広島町大朝4413
 事業内容 水力発電事業

KEYWORD

使用電力のオフセット

TITLE

小水力発電へのチャレンジ

環境共生を目指す安成工務店として電力のオフセットは大きな企業課題です。そこで持続可能な解決策として地域の資源を活用する発電事業にチャレンジしています。隣県の広島県北広島町にて、「水と共生するまちづくり～町と県が連携した行政主導型小水力開発～」をテーマに広島県、(一社)北広島町地域エネルギー会社、北広島小水力発電(株)、(株)もみじ銀行、(株)YMFZONEプランニングの5団体の共同提案が、令和7年5月29日に環境省の脱炭素先行地域に選定されたことから、事業化がスタートすることとなりました。
 ・計画期間 2025年度～令和12年度
 ・交付対象事業費 約55億円(内民間負担金:13.8億円)
 今後、北広島町の子育て、教育環境の向上を図るため、子育て・教育関連施設の環境改善を、地域エネルギー会社を介した電力供給と収益改善に取り組みます。

PROFILE

安成 信次

北広島小水力発電 株式会社
代表取締役



75周年での バトンタッチ

誠実さという「背骨」の継承

安成：2026年、安成工務店は創業75周年という大きな節目を迎えました。

私が社長として38年間、無我夢中で走り続けることができたのは、ひとえに「設計施工一貫（デザインビルド）」という、逃げ場のない誠実なものづくりを、現場の社員や協力業者の皆さんが守り抜いてくれたからです。

今回、創業家ではない中村さんにバトンを託す決断をしたのは、この「背骨」を誰よりも客観的に理解し、かつ次の25年を戦える組織へ進化させてくれると確信したからです。

中村：ありがとうございます。本日、改めてその責任の重さを痛感しています。私は前職の金融機関からこの世界に飛び込んで8年目になりますが、安成工務店は一言で言えば「稀有な、そして変な会社」だと思っています（笑）。

完成工事の9割以上を自社設計で行い、断熱材まで自社グループ内で作る。スピードや効率を重要視する金融界の常識から見れば、最初は非合

理に見える部分もありました。しかし、これこそが、施主やお客様からの絶大な信頼を生んでいる。会長が築き上げたこの「誠実な背骨」こそが、私たちが地域で生き抜くための最大の資産だと、外から来た人間だからこそ強く感じています。

安成：効率だけを追えば、言い方は

相応しくないですが、外部の協業先に丸投げするのが一番楽かもしれません。しかし、それでは法人のお客様の事業成長に伴走することもできないし、私たちが提供する木の家に住む人の人生に責任を持つこともできません。

私は地域に必要とされ続ける会社で

あるために、「丁寧な仕事を通じてお客様の期待に応える」「良いと思ったものは徹底的に追求し内製化する」「ハードを提供するだけでなく地域のコミュニティの再構築にも深く関わる」という考え方を、理念だけでなく実業を通じて体現したかった。

中村さんは、私のこの少し泥臭い思

想を、安成工務店では経営企画本部長として舵を取り、グループ子会社では代表として事業そのものに当事者として深く関わり、安成工務店を地域社会の確かな資産にしていく道筋を付けてくれましたね。

「空白の期間」と「病」が教えた、 人生と事業の有限性

中村：私の経営に対する覚悟の根底には、34歳の時の闘病経験があります。それまでは金融マンとして、数字や効率を追いかけることが正義だと思っていました。

しかし、大きな病を経験し、死を身近に感じた時、「人生は有限である」という当たり前の事実と直面したんです。限られた時間の中で、私は誰のために、何を残せるのか。

その問いの答えを探していた時に、色んな出合いやきっかけがあり、安成工務店でのキャリアチェンジが選択肢となりました。

安成：その経験があったからこそ、中村さんの言葉には単なるロジックを超えた「熱」があるんですね。

中村：はい。私の信条である「今日とは違う明日を創る」という言葉も、この経験から生まれました。過去の延長線上に未来を置くのではなく、理想の未来から今何をすべきかを逆算し、仲間と共に現実を少しずつ変えていく。安成工務店という素晴らしい器を使い、私たちの地元を、次代を担う若い人たちや子供たちが誇れるものに変えていく。そのために、私は自分の全ての時間を投じていきます。

環境と共生する「呼吸する木の家」を磨いて…

デザインビルドをもっとアピール

安成
信次

代表取締役会長



社員みんなの力を引き出します

背骨と筋肉をつけていきます

中村
圭

代表取締役社長

創業75年

継承と革新の背骨

“つくる会社”から“地域の未来を共につくるプラットフォーム”へ

会長
×
社長 対談

地域プラットフォーム への進化

住宅という 「原点」と「拡大」の意義

安成：私が社長時代、特に2000年以降に注力してきたのが、商業開発やまちづくりへの参画でした。地域に必要とされる「場」を自ら企画し、投資し、創り出す。これは建設業が単なる請負業から脱却し、需要を創出し、地域社会を支える「主役」になるための挑戦でした。

中村：これまでのキャリアで「お金の循環」を見てきた私だからこそ、今度は「場と時間の循環」で地域を元気にしたいんです。ここで強調したいのは、私たちの原点は、言うまでもなく「木の家」を主軸とした住宅事業にあるということです。

ここで磨き抜かれたデザイン、環境性能、そしてお施主様への誠実な向き合い方こそが、YASUNARIグループの全事業に流れるDNAです。

安成：その通りです。住宅事業で培った技術と信頼があるからこそ、大きなプロジェクトも任せていただけるわけですからね。

中村：はい。その上で、事業建築や

商業開発、そして公民連携事業を通じて事業規模を拡大し、グループとして売上300億円規模を目指すのは、単なる数値目標ではありません。

住宅事業で培った「安成ブランド」を、地域全体のインフラ（地域のOS）へと昇華させる挑戦です。グループ全体が成長し、経営基盤がより盤石になることで、住宅事業におけるアフターメンテナンスや技術革新にもさらなる投資ができ、お施主様の暮らしを一生涯守り抜くことができます。そのため**の必須の通過点だと考えています。**

安成：「やすらガーデン」は、その考え方を公民連携事業に取り入れた象徴的な事例ですね。

医療、福祉、子育て、飲食……多世代が交流する場を、設計施工だけでなく「運営」まで引き受ける。

出口（運営）の苦勞を知っているからこそ、入口（設計・施工）で一切の手抜きができない。これが安成流の誠実さや丁寧な仕事の体現です。

運営まで関わることで、地域経済の血流を回し続けることができます。

組織の構造を変え プロが輝く舞台を創る

中村：就任挨拶でも社員に伝えました

が、私は皆さんほど建築を熟知したプロではありません。図面は描けませんし、施工管理もできません。

しかし、法人営業は20年近くやってきましたし、「組織の在り方に工夫を加え、その構造を変えていくこと」にも強みを持っています。

ものづくりのプロである社員の皆さんが、その能力を最大限に発揮できる「強い組織」を創ること。それが私の役割です。

安成：非常に頼もしい言葉です。私がプレイングマネージャーとして先頭を走っていた時代から、今は組織全体の総合力で地域課題を解決する時代に入っています。私が築いた「背骨」に、中村さんが「筋肉」をつけてくれている感覚です。

中村：現場の声を「進化のエンジン」にしたいんです。理想だけで会社は変わりません。現場のみんなが「もっとこうすれば良くなる」「社内ではこんな話題で議論を深めたい」「この作業はデジタルで効率化できる」と感じている気づきを、個人の努力に留めず、組織を動かす仕組み（ルールやDX）へと刷新していく。これを私は約束します。

デジタルの活用は、単なる効率化ではなく、現場の人間がよりクリエイティブな仕事に集中するための「武器」

にしていきたいですね。

安成：中村さんが、これほどまでに「現場」を大切にしてくれるのは、私としても非常に嬉しい。言葉だけでなく、必ず実践を続けてください。

組織構造に変化が生まれれば、若手社員は「自分の名前で挑戦できる」機会が増えていくことでしょう。それが結果として、安成工務店を「第二の創業」へと導く原動力になるはずですよ。

“稼ぐ力”と “残す社会”の両立

CSVの核心

安成：私たちが掲げるCSV（共通価値の創造）の本質は、社会価値と経済価値の両立です。「良いことをしている」という自己満足だけでは、会社は存続できません。

中村さんには、鋭い視点で、この「稼ぐ力」の強化も強く期待しています。

中村：仰る通りです。「稼ぐ力」と「残す社会」の両立は不可欠です。提供価値に見合った対価をしっかり受取り、適切な利益を上げ続けること。

それができて初めて、脱炭素やエネルギー自給といった、次代のスタンダード（標準）となる社会課題解決への「戦略的投資」が可能になります。

安成：投資をコストと捉えるのではなく、未来への種まきと捉えるわけですね。

中村：その通りです。これらは、将来的に必ず求められる市場ニーズを先取りし、他社に先駆けてノウハウを蓄積することで、中長期的な競争優位性を確立するための先行投資です。

誠実な仕事を「確かな利益」に繋げ、その利益を次なる成長の種に投じる。この地域と私たちが共に繁栄する好循環を創ることが、私の経営者としての使命です。

安成：私たちの原点である「木の家」で磨いた高い環境性能を、中大型の事業建築や公共プロジェクトにも横展開していく。それが脱炭素社会において、地域ゼネコンである私たちが果たすべき最大の役割ですからね。

創業100年 次の25年へ向けて

安成：私が守り育ててきたバトンを、中村さんがどう輝かせてくれるか、本当に楽しみにしています。私もしっかり会長としてバックアップしますが、こ

れからは中村社長のカラーで、恐れずに思い切り舵を切ってください。

中村：ありがとうございます。会長が築かれた75年の重みを背負いながらも、私は過去の延長線上にない未来も創り上げていきます。

ものづくりのプロである社員の皆さんと、組織構造を変えていく私。それぞれの強みを掛け合わせ、新しい安成工務店を共に創り上げていく。その先頭に立ち、25年後の創業100周年、さらにその先へと続く道を切り拓く覚悟です。

安成：受注業態から脱して企画提案型の建設業をつくる夢はまだまだ5合目。自然素材の呼吸する木の家で高い評価を得、行列の出来る工務店を作る夢は、認知こそされるもまだ3合目。大工や左官、建築に携わる職人を含めた建築人が評価される社会を見たいという夢はまだ入り口にすら立っていないような思いです。

しかし、それらを実現するにはどう考えてもこの道しかないのです。

「今日とは違う明日を創る」。その気概があれば、安成工務店はこれからも地域に必要とされ続けるでしょう。共に頑張りましょう。

中村：はい。精一杯努めます。会長、これからもご指導のほど、よろしく願います。